

## Proceedings of the Arthropodan Embryological Society of Japan 投稿規約

(2022-6-30 改定)

1. 原則として年1回刊行し、節足動物の発生、形態形成に関する論文を掲載する。
2. 掲載論文は、招待論文、一般投稿論文、講演要旨からなる。原則として、会員のみが投稿資格を持ち、共著の場合は著者の少なくとも1名は会員であることを要する。ただし、招待論文はこの限りでない。
  - (1) 招待論文：編集委員会の依頼に応じ投稿するもので、総説を含む。原則として英文。
  - (2) 一般投稿論文：原著論文、短報のいずれかを選ぶことができるものとする。原則として英文。原著論文は刷り上がり16ページ以内、短報は刷り上がり4ページ以内とする。
  - (3) 講演要旨：日本節足動物発生学会年次大会で発表した論文の講演要旨を投稿するもので、原則として刷り上がり2ページ以内、和文でも投稿できるものとする。
3. 上記2項の論文の受理は、その内容が他の刊行物にこれまで投稿あるいは受理されていないことを前提とする。
4. 論文の掲載、審査、本誌に関するすべての事柄は、編集委員会に一任されるものとし、招待論文および一般投稿論文は編集委員会による査読を経るものとする。
5. 英文論文においては、原則として、投稿に際してしかなるべき方法によって英文のチェックがなされているものとする。
6. 原稿作成に際しては別に定める投稿細則に従うものとし、電子ファイル原稿を編集幹事および編集委員長宛に送付する。
7. 掲載論文の著作権は学会に帰属するものとする。ただし、論文の著者は、営利を目的としない場合には、その論文を学会の許諾なしに複製し、機関リポジトリ、自己のホームページ等の電子媒体を通じて公開することができる。この権利は著作権が学会に帰属している本誌の既刊の全ての論文にも遡って適用される。

日本節足動物発生学会

# Proceedings of the Arthropodan Embryological Society of Japan 投稿細則

(2023-12-27 改訂)

## 投稿の手引 (一般事項)

1. 投稿に当たっては最新版の投稿規約、投稿細則に従うものとし、体裁は *Proceedings of the Arthropodan Embryological Society of Japan* の最新巻に準拠する。
2. 投稿は原稿を編集幹事および編集委員長宛にメールの添付ファイルとして送付することで行う。ファイルサイズが大きい場合、投稿前に送付様式について編集幹事に確認するものとする。
3. 査読・調整後の改訂原稿提出は、訂正した原稿の電子ファイルと、変更履歴を記録した電子ファイルの両方を提出することにより行う。
4. 印刷1ページは、英文で約4,800字、和文で2,400字に相当する。
5. 1論文当たり無料の別刷50部とPDFが作成される。カラーチャージは10,000円/刷上がり1頁を原則とするが、編集委員会の判断によって減額もしくは免除されることがある。

## ○ 英文・和文共通

1. 電子ファイル原稿の本文、図説明、表は原則として Word で作成し、A4用紙に1ページ当たり25行・1行あたり半角72字前後で作成し、上下・左右に2.5cm以上のマージンを設ける。ただし、表は本文中に組み込まず、別ファイルで作成する。
2. 題名・著者名・所属などすべてセンターリングなどを行わず、左寄せにする。
3. 文字飾り (イタリック・強調文字など)・特殊文字の指定は以下の様式で行う。
  - i) イタリックは実線アンダーライン、ボールド・ゴチックは波線アンダーラインで原稿に赤で指定する。
  - ii) 特殊文字は原稿に赤字で指定する。例：上付/下付文字、 $\mu$ ・♂・♀・°Cなどの特殊文字や記号。
4. ラテン語由来の略号をイタリックにする必要はない。例：cf.、et al.、ca.、i.e.、e.g.、s.str.、s.lat.、in vitro、in situ など。
5. 時間、分、秒の単位はそれぞれ h、min、sec とする。
6. 数字と単位の間には基本的に半角スペースあける (ただし、°C、%では空けない)。
7. ダッシュはハイフンで代用せず、区別して原稿に入力する。
8. 文献表は例のようにアルファベティカルに作成する。同名の著者が続く場合でもダッシュなどで省略することは行わない。同名雑誌が続く場合も *ibid.* などでも省略しない。本文中で「○○ et al.」あるいは「○○ら」などと引用した文献の著者名は、文献表で全てを明らかにする。また、「○○ et al.」で引用した文献は、まず年代順にならべ、その後、第2著者以降の名前によってアルファベット順に配列する。各文献で第2行目からのタブ落としは不要。
9. 図の説明は改ページ後、本文の最後に置く。原則として、説明文、略号、縮尺の順に配列する。説明第2行目からのタブ落としは不要。スケールは倍率・縮尺率でなくスケール・バーで示すことが望ましい。
10. 統一を図るために略号、スケールの説明文での書き方は下記を基準とするのが望ましい。

- i) 略号は bd: blastoderm, e: embryo, me: mesoderm. のようにコロン、コンマで区切る。あるいは説明文の中に括弧で blastoderm (bd) のように書き込む。
  - ii) スケールは Scale(s) = 100  $\mu\text{m}$  あるいは Bar(s) = 50  $\mu\text{m}$  と表記する。
11. 図版の提出は本文とは別の電子ファイルで行い、原稿本文中に図を挿入しない。図版のファイル形式は tiff または jpeg が望ましい。画像の解像度は白黒線画の場合は 600 dpi 以上、モノクロ写真、カラー写真の場合は 300 dpi 以上が望ましい。図版の作成に当たっては製版後の紙面への収まりを考慮すること（例えば、あまり縦に長い図の場合、紙面にかなりの無駄があるので、可能ならば横位置にするなど）。
  12. 表は別紙に作成し本文中に組み込まない。表における罫線はファイル上では赤で示す。表タイトルは表上部に置き、第 2 行目からのタブ落としは不要。略号（図の場合に準拠）、脚注は表下部に置く。

#### 英文原稿（招待論文・総説・一般投稿論文[原著論文・短報]・講演要旨）

1. 原稿第 1 ページに題名・著者名・所属・住所・ランニングタイトル（大文字 48 字以内）を明記し、本文を続ける。Acknowledgments、References はページをかえずに本文に続ける。
2. 本文には、必要に応じ Introduction、Materials and Methods、Results、Discussion、Conclusion などの項目をもうける。また講演要旨および短報を除いて原則的に本文冒頭に Abstract を付すものとする。
3. 決して右揃えは行わない。
4. 単語が行に収まらないときは次行にその単語全体を移し、ハイフンは用いない。
5. 文頭、段落の頭におけるタブは 5 字分とする（6 字目から始める）。
6. ピリオド、コンマ等（. , : ;）の後に半角スペースを一つ入れる。
7. 著者において英文のチェックがなされていることを原則とする（校閲業者での校閲など：業者に心当たりのない方は事務局で紹介いたします）。

#### 和文原稿（講演要旨のみ。それ以外は原則として英文原稿）

1. 原稿は題名・著者名につづき著者・題名・所属・住所を英文表記する。
2. 句点は「。」、読点は「、」を用いる。
3. 図表説明は英文で作成する。本文中の参照も「図」、「表」でなく、Table、Fig. とする。
4. 文献等を引用した場合は、本文の後に「引用文献」を付ける。本文中での欧文表記人名の扱いは英文論文と同様にする。例：Poulson and Sakaguchi (1961)、(Poulson and Sakaguchi, 1961)、Poulson et al. (1977)。和文論文の本文中での引用は、(安藤・川名, 1956)、岡田 (1988) のようにする。
5. アルファベット、数字ならびにこれらに係る記号はすべて半角。ローマ数字は半角アルファベット表記とし、全角記号は使用しない。また、アルファベット、数字の前後には半角スペースを入れる。  
例：「極細胞質内 mtrRNA の研究」、「コントローラーの 3 個のタイマー」

### <References、引用文献の記入例>

文献は著者のアルファベット順にならべる。同一著者は、著者単独、2名、3名以上の順とするとともに、2名のは第二著者のアルファベット順、その後、年代順とする。3名以上（本文で〇〇 et al.あるいは〇〇らと引用されているもの）は年代順で並べ、同一年の場合は a、b、c で区別するとし、それら間の順は第二著者以降のアルファベットによる。

- Anderson, D.T. (1972) The development of hemimetabolous insects. In S.J. Counce and C.H. Waddington (eds.), *Developmental Systems: Insects*, Vol. 1, pp. 95–163. Academic Press, London.
- Anderson, D.T. (1973) *Embryology and Phylogeny in Annelids and Arthropods*. Pergamon Press, Oxford.
- Ando, H. (1970) Embryonic development. In T. Uchida (ed.), *Systematic Zoology*, Vol. 7, Arthropoda IIIa, Insecta I, pp. 37–130. Nakayama-Shoten, Tokyo. (in Japanese).
- Dohle, W. (1964) Die Embryonalentwicklung von *Glomeris marginata* (Villers) in Vergleich zur Entwicklung anderer Diplopoden. *Zoologische Jahrbücher, Abteilung für Anatomie und Ontogenie der Tiere*, **81**, 241–310.
- Fujita, M. (2016) *Developmental Studies on Eucorydia yasumatsui* Asahina, 1971 (Insecta: Blattodea, Corydiidae). Doctoral thesis, Graduate School of Life and Environmental Sciences, University of Tsukuba, Tsukuba.
- Haga, K. (1985) Oogenesis and embryogenesis of the idolothripine thrips, *Bactrothrips brevitubus* (Thysanoptera, Phlaeothripidae). In H. Ando and K. Miya (eds.), *Recent Advances in Insect Embryology in Japan*, pp. 45–106. Arthropodan Embryological Society of Japan, Nagano. (K.K. ISEBU, Tsukuba).
- Haget, A. (1977) L'embryologie des insectes. In P.P. Grasse (ed.), *Traité de Zoologie*, Tom. 8, Fasc. 5B, pp.1–387. Masson, Paris.
- Heymons, R. (1897) Entwicklungsgeschichtliche Untersuchungen an *Lepisma saccharina* L. *Zeitschrift für Wissenschaftliche Zoologie*, **62**, 583–631.
- Hinton, H.E. (1981) *Biology of Insect Eggs*. Vols. I-III. Pergamon Press, Oxford.
- Johannsen, O.A. and F.H. Butt (1941) *Embryology of Insects and Myriapods*. McGraw-Hill, New York.
- Kobayashi, Y., T. Watanabe and H. Suzuki (2006) Embryonic development of the firefly *Pyrocoelia rufa* Oliver (Insecta: Coleoptera, Lampyridae), with special reference to its hibernal diapause. *Proceedings of the Arthropodan Embryological Society of Japan*, **41**, 47–53.
- Kobayashi, Y., K. Niikura, Y. Oosawa and Y. Takami (2013) Embryonic development of *Carabus insulicola* (Insecta, Coleoptera, Carabidae) with special reference to external morphology and tangible evidence for the subcoxal theory. *Journal of Morphology*, **274**, 1323–1352.
- Kondo, A. (1969) The fine structure of the early spider embryos. *Science Reports of the Tokyo Kyoiku Daigaku, Sec. B*, **14**, 47–67.
- Kunkel, J.G. and J.H. Nordin (1985) 4. Yolk proteins. In G.A. Kerkut and L.I. Gilbert (eds.), *Comprehensive Insect Physiology, Biochemistry and Pharmacology*, Vol. 1, pp. 83–111. Pergamon Press, Oxford.
- Machida, R., T. Nagashima and T. Yokoyama (1994) Mesoderm segregation of a jumping bristletail, *Pedetontus unimaculatus* Machida (Hexapoda, Microcoryphia), with a note on an automatic vacuum infiltrator. *Proceedings of the Arthropodan Embryological Society of Japan*, **29**, 23–24. (in Japanese).

Sander, K. (1984) Extrakaryotic determinants, a link between oogenesis and embryonic pattern formation in insects. Proceedings of Arthropodan Embryological Society of Japan, **19**, 1–12.

[和文原稿に和文論文を引用する際の記入例]

安藤 裕 (1970) 3. 胚子発生. 動物系統分類学 (内田 亨編), 7 卷 (下 A), pp. 37–130. 中山書店, 東京.

安藤 裕・川名豊子 (1956) 外部観察によるモンカゲロウ *Ephemera strigata* Eaton の胚子発生. 昆虫, **24**, 224–232.

岡田益吉 (1988) 昆虫の発生生物学. UP バイオロジー 68. 東京大学出版会, 東京.

問い合わせ先 :

日本節足動物発生学会編集幹事 内船 俊樹

〒238-0016 神奈川県横須賀市深田台 95

横須賀市自然・人文博物館 内船 俊樹 編集幹事

Tel: 046-824-3688 (事務室) Fax: 046-824-3658 (事務室)

E-mail: u\_chee21@yahoo.co.jp

原稿送付先 :

日本節足動物発生学会編集幹事 内船 俊樹 u\_chee21@yahoo.co.jp

および

日本節足動物発生学会編集委員長 町田 龍一郎 machida@sugadaira.tsukuba.ac.jp